



## 夕やけのまちの明日を照らそう

大野 聖二

私たちのプロバスクラブは今年10周年を迎えることになりました。昨年からは平原実行委員長を中心に記念事業の準備が進んでいます。会員皆様のご協力をいただきクラブをあげてご支援をいただき、成功させていただけますようお願いいたします。

先日第9回生涯学習サロンのまとめを拝見しました。ちょうど手元にあった第1回サロンのまとめと対照したのですが、内容も要旨も遙かに充実して、9年間の成長を痛感しました。これは毎回の会長、担当委員長、役員の方々、会員の皆様のご努力のたまものと心から感謝いたします。ただ、その中に流れる基本的な精神は揺るいでいないことも感じました。

1年ごとに役員が替わることもクラブがマンネリに陥らない重要な要素です。非連続の連続がクラブ運営の基本的なあり方で、10周年を迎える今年、会長をおおせつかつて責任の重大性をひしひしと感じています。幸いすばらしい役員の方々と会員に恵まれています。従前通りのご支援をいただけますよう心からお願いいたします。

八王子のまちは首都東京の西にあり、関東山地の山並みが西側に展開しています。この山の緑が清澄な大気をはぐみ首都の大気環境を守っています。この恵まれた自然によって映える夕焼けは鮮やかな彩りを見せてくれます。当市で生まれた中村雨虹がこの情景を作詞した「夕焼け小焼け」は多くの人から愛唱されました。

夕焼けは明日の天気を約束します。

夕焼けのまち八王子の明日へ期待をかけて、未来を担う人たちへ私たちの経験と知識と情熱を伝えましょう。そして私たちも新しい使命を享受して、楽しく健やかに充実したクラブライフを送ろうではありませんか。この1年よろしくお願いいたします。

## 第116回例会

日時：平成17年6月9日（木）16：30～17：10

場所：エルシィ八王子

出席者：53名 出席率 88%（会員総数 62名 休会 2名）

1. 山崎例会委員長の司会で定時に開会
2. 大高会長の挨拶

今年度は、『支えあおう・感謝の心で“ありがとう”』のテーマで出発したが、一年間を振り返り次の点に触れ、会員の協力に感謝の意を表した。

- ①10周年準備会を立ち上げた
- ②各委員会は支え合って頑張った
- ③対外活動の維持 全日本プロバス協議会には立川会員が副会長で参加し活躍いただいた。会長自身も近々前橋プロバスクラブを訪問予定。

3. 橋本鋼二会員叙勲祝いの贈呈

橋本会員は本年春の叙勲で、多年にわたる農業分野での功労に対し、「瑞宝小綬賞」を受賞されたのを祝し、記念品の贈呈が行われた。本人から謝辞が述べられた。

4. 幹事報告 吉田幹事

自身は幹事の仕事を、永井副幹事は会計と「市民健康の日」を担当したが、一年間の会員からの協力に感謝。

5. ①山下会員委員長：会員の減少傾向があり会員増強を図った結果、6名の新会員が入会できたことは喜ばしい。会員の協力を謝辞。
  - ②矢崎情報委員長：一年間、プロバスだよりへの投稿に対し謝辞。
  - ③小林研修委員長：6月22日に予定した親睦旅行会は、30名を予定したが15名のみの参加申し込みであった為、中止となりお詫びしたい。発足したばかりの旅行会が10～15名の小旅行を計画中。親睦旅行の中止以外は、委員会の責務はまっとうでき、会員の協力を謝辞。
  - ④佐々木地域奉仕委員長：当委員会の2大イベントは「いちようまつり」と「生涯学習サロン」。前者には30数名の会員が参加。後者についてはアンケート集計表を作成、今後の参考にされたい。一般会員の募集では一時58名にとどまり、皆さんの努力で最終的に17名の新人を含め、74名に到達できた。野外サロン、さよならパーティの会場手配で困難な問題もあったが、皆さんのご協力で無事克服できた。
  - ⑤山崎例会委員長：当初、楽しい例会、皆さん喜んで出て来れる例会を目指したが、惰性に流れた1年間だったかな、と反省。だが、会員の皆さんが時間を守っていただき、例会を計画通り進めることが出来、感謝。
- 山崎例会委員長からの注意事項：
1. ※次回例会7月14日（木）には、新年度会費及び10周年記念行事費、計¥23,000を徴収。  
※8月例会はお盆を考慮して8月4日（木）と予定。  
※7月例会から9月例会まで、軽装（ノータイ）で出席。
  2. お茶同好会（矢崎会員）：8月の例会はお休み。
6. プロバスソング斉唱
  7. 閉会：大野副会長から閉会の辞があり、定時に例会を終了。第9回総会開始まで、暫時休憩。

## 第9回定期総会議事録

日時：平成17年6月9日（木）17:10～17:50

場所：八王子エルシィ 4階

出席者：50名

1. 開会  
司会の吉田幹事が定期総会の開会を宣言し、会員数60名中、50名出席し、総会が成立したことを確認。
2. 議長選出  
司会者から、恒例により大高秀夫会長を議長に選出したい旨が諮られ、拍手をもって承認された。
3. 大高議長から、議事に入る前に、議事録の書記に矢崎安弘会員と橋本鋼二会員の2名を任命することを提案、承認された。次いで、議事録の署名人に、山崎修司会員と浅川文夫会員を推し、承認された。
4. 議事
  - 1) 第1号議案 事業報告（2004年7月～2005年6月）吉田幹事以下3点の報告書が配布された。
    - ①4ページに亘る詳細な「東京八王子プロバスクラブ事業報告」
    - ②会員動向報告
    - ③2004年～2005年同好会報告
 今年度は、『支え合おう・感謝の心で・“有難う”』のテーマで、以下三つの目標を掲げた。
    - ①10周年記念事業の準備 ②各委員会が支えあう ③対外活動の維持・継続
 ①については、準備委員会を立ち上げ実行委員会が発足し、活動が軌道に乗ってきた  
 ②については、各委員会の連携を図り、全員で支えあう活動を推進。  
**例会委員会**は、楽しい例会にする為自由席にし、自由懇談の時間を長くした。更に、最近入会された人の為にはパスト会長を紹介し、プロバスクラブの歴史を紹介した。また、時間の許す範囲で「卓話」をセットした。  
**情報委員会**は、投稿を中心に「プロバスだより」の充実を図った。

会員委員会は、会員増強推進のため、入会条件を確認し、会員努力の結果、6人の新入会員を迎えることが出来た。

研修委員会は、サークル活動についてのアンケート調査を実施し、これまでの3同好会（囲碁、お茶、ゴルフ）に加え、旅行会、芸術鑑賞、写真部、社交ダンス、の4つのサークルが発足し、来年度以降の活動の基礎が出来た。野外研修は八王子地域の寺社・史跡を訪ねた。

地域奉仕委員会は、生涯学習サロンの継続・充実を図り、特に一般会員から好評を博した。

- ③については、全日本プロバス協議会の活動に参画し、立川富美代協議会副会長の下に関東地区のプロバスクラブとの交流が進んだ。ホームページが昨年創設され、その維持・継続・充実が図られた。行事・イベントへの参加・協力については、「いちようまつり」、「市民健康の日」に参加し、市民との交流を計った。

以上、今年度の事業を振り返り総括し、報告を終えた。

## 2) 第2号議案 次年度役員選出

議長より、会則第9条の規定に従って、理事9名、会計監査2名の選出を行いたいとの発言があり、配布されている「2005~2006年度 役員人事（案）」の承認を求め、拍手をもって承認され決定した。次いで、議長の求めに応じて、新役員が全員ステージに登壇した。

次に、運営細則の規定に基づき、新理事の分掌が、大野新会長から発表された。

理事	会長	大野 聖二
理事	副会長	濱野 幸雄
理事	幹事	佐々木研吾
理事	副幹事	下田 泰造
理事	例会委員長	徳永 保徳
理事	情報委員長	橋本 鋼二
理事	会員委員長	野末 孝雄
理事	研修委員長	八木 啓充
理事	地域奉仕委員長	永井 昌平

会計監査 石井 充

会計監査 関戸 一郎

5. 大高議長より、何か提案事項があれば、この場でお伺いする旨の発言があったが、会員からの提案・発言がなく、議事は終了した。
6. 旧役員退任挨拶：旧役員は全員ステージに登壇し、大高会長が代表して退任挨拶を行った。
7. 新年度会長挨拶と会長委嘱人事：

これからは、全員が一度は役員になっていただき、会を盛り上げて欲しいと思いますので、今からその準備をして欲しいと思います。今度も新しい人ばかりを選ばせてもらいました。皆さんからは是非ご支援を頂きたいとおもいます。

### 会長委嘱人事

全日本プロバス協議会副会長（地区担当役員）	立川富美代
事務局長	岡田 尚
事務局長補佐	近田 正人
I. T.（ホームページ）担当	武田洋一郎

8. 司会の吉田幹事が、第9回定期総会の終了を宣し、幕を閉じた。  
議事録書記 矢崎 安弘  
橋本 鋼二

私は当時59歳10ヶ月、規約に従えば入会の資格はなかった。然しながら知人の南RCのメンバーの強力な薦めもあり、平成7年5月、セミナーハウスで実施された第1回設立準備会に参加し、今まで継続している会員のひとりとしてこの10年を振り返ってみたい。

思えばこの10年は、私にとっては40年ぶりに戻った、新しい八王子の生活に馴染むための充実した年月であった。大阪に本社を持つ会社を定年退職して1年余り、いかに早く地域に溶け込んでいかを考えていた時期でもあり、八王子南RCが創立10周年記念事業としてプロバスクラブを設立するとの事に興味を持っていた。第1回の準備会には、予め指名されていた会員候補者の9名のうち7名と南RC関係者9名が出席、プロバスクラブ設立の意義、使命、趣旨説明があり、質疑応答、意見交換が行われた後、一同、兎に角やってみるようになった。

6月の第2回準備会には、早速、会員候補者を2組に分け、会則・規約検討委員会（4名）、拡大会員選考委員会（5名）とし、大野聖二委員長（両委員会兼務）を中心に活動が始まった。私は会員委員長代理として会員の募集、選考に当たった。暗中模索であったが、規約に定める外に、会員として相応しい資質、目標を決めて選考した。お陰さまで会員相互の推薦、RC会員の推薦もあり順調に会員の増強が図られた。同時進行の会則・運営細則についても、会員の中に法律に詳しい専門家も居り、6月の委員会で早々に現在の会則の素案が作成され、7月の第3回準備会で承認された。

8月の第4回準備会では、設立総会までの計画が示され、それに向けての準備委員会が発足した。準備委員会では会員31名の確定、設立総会の式次第、初代役員を選出など、細部の打合せを行い、平成7年10月18日（水）には、設立総会が開催され、同時に国際ロータリー第2750地区ガバナーを迎えての南ロータリークラブ全会員への創立披露が行われる運びとなった。以上の如く設立に至るまで非常にハードスケジュールであったが、当時の南RC大野聖二準備会会長、酢谷善元第1部門長の強力なリーダーシップと助言により順調に進展し、日本で15番目、東京では2番目となる、チャーター会員33名の東京八王子プロバスクラブが誕生した。正式なお披露目は平成8年2月、東京八王子南ロータリークラブ創立10周年記念式典であり、それに合わせてバッジ、旗、プロバス賛歌の作成が急ピッチで進められた。

旗やバッジのデザインについてもストーリーがあり、会の目的に相応しいものとなっている。プロバス賛歌の歌詞、作曲にも専門家の手が加えられ、会の趣旨、目的を見事に織り込んだ立派なものが出来上がり、現在も毎例会時に唱われている。本当にこのクラブは多士済々であると感じ入る。

第1回準備会で懸案であった奉仕活動についても、初年度から会長の発案で「生涯学習サロン」が企画され、現在の雛形となる第1回が実施された。不安と期待を持って始められたサロンも、年を重ねるたびに充実し、毎年新しいテーマを求めて9回を数えた。

2年程前、NHK深夜放送「心の時代」を寝ながら聞いた、「21世紀は第5次産業の時代、5次産業とは『癒し』であり、20世紀の様に組織の中で働いていれば目的が達成される時代ではなく、これからは個人が自立して自分を磨き、組織を活性化し共存していく時代となる。その為には良い人に出会い、自分の持っていないものが吸収できる場が必要である」という話の内容であった。プロバスクラブや学習サロンは正にそれに相応しい場であり、参加することで人間関係が深まり、同時にお互いの意見を交換することによって、自分を向上することが出来る。時代にマッチした素晴らしいことに参加しているのだと思う。

最近、南RCの酢谷さんに、私達のクラブに求められた事についてお伺いする機会があった。要約すれば「クラブ会員となられた人達の豊かなキャリアを活かし、満ち溢れる人生を続けていく場にして欲しい、そして活動すればするほど、心の豊かさは右肩上がりに広がっていく、『愛される喜び』よりも『愛する喜び』の方がより『幸せ』が大きい」と含蓄のある話を聞いた。発起人の人達を満足させられるクラブになったのだろうか？10年間の活動を振り返って、発足時の精神は失われることなく、親睦、奉仕活動の輪も広がり、スポンサークラブの八王子南ロータリークラブとも、付かず離れずの良い関係を維持しながら、持ちうる情報で知る限り、他に誇れる内容、規模のクラブに成長しているのではなかろうか。これからも時代のニーズに沿って着実に前進するクラブとなるよう、活動を続けて行きたいものだ。

## 第117回例会

日時：平成17年7月14日（木）12:30～14:30

場所：エルシー八王子

出席者：54名 出席率92%（会員総数62名、内休会3名）

### 1. 徳永例会委員長の司会で定時に開会

### 2. 大野会長挨拶・新年度運営方針

10周年に当たる年に大役を仰せつかり、緊張感を持っている。今年のテーマとしては「夕やけのまちの明日を照らそう」を使わせていただくことにした。八王子・恩方出身の中村雨紅さんが作詞した「夕焼け小焼け」は八王子を代表する歌である。夕焼けは明日の天気を約束するシンボルでもある。私どもも盛りを過ぎてしまったが、その知識や経験をこの町の後世の方に伝えたいという思いをこめて、生涯学習サロンを進めてきた。「夕やけのまちの明日を照らすこと」をタイトルにかかげ、後輩を育てお互いを研鑽し合っていきたい。

今年はプロバスクラブ設立10周年を迎えた。ロータリークラブ設立10周年記念事業としてプロバスクラブ設立を提案された。その時、ロータリークラブから素晴らしいメンバーを十数名紹介された。このメンバーを見たとき、これだったら普通の老人会ではない、皆さんの叡智を後世の市民に伝えられるようなクラブを作ろうということでスタートした。幸いこの趣旨が引き継がれ、皆様のご努力で生涯学習サロンは年々発展してきた。創立時の会員数は32名だったが、今はほぼ倍増している。私はロータリークラブ40年の経験があるが、クラブが何か目的があって、それに結集した年は充実している。プロバスクラブの成功は、歴代の会長さんが生涯学習サロンに一生懸命取り組み、皆さんがそれに協力し全員で運営してきたことに大きな意義があると思う。

今年は10周年記念行事を行うことになっている。平原実行委員長が中心になって企画が進められている。私どもはプロバスクラブの存在意義を認めていただき、あわせて私どもの会をもっともっと強化していきたいと思う。こういう機会になれば素晴らしい。全員参加、ご協力をいただくということで運営させていただければ、たいへんありがたい。

### 3. 臨時総会

濱野副会長を議長に選出し、前年度決算報告・監査報告、並びに新年度予算案を審議した。

#### 1) 前年度決算報告・監査報告

前年度決算報告は永井副幹事から、資料をもとに収支3,635,602円の内容説明、10周年積立金勘定などの報告があり、それらの監査結果については野末監事から相違がないという報告があり、了承された。

#### 2) 新年度予算案審議

佐々木幹事から資料をもとに、2005～06年度の説明があり、ほぼ前年並みの規模で収支3,260,548円の予算案が説明され承認された。加えて、八王子南ロータリークラブから助成金5万円を贈られたことが報告された。

### 4. 来賓ご紹介・ご挨拶

東京八王子南ロータリークラブ： 副会長 広瀬武彦様、プロバス委員長 遠藤 博様、プロバス副委

員長 千野宗良様、パスト会長 加賀谷恵様が出席され、広瀬副会長からプロバスクラブ10周年、八王子南ロータリークラブ20周年の節目の年、派手には出来ないが、協力し合って周年行事が迎えられるようにといった趣旨のご挨拶があった。

#### 5. 幹事報告（佐々木幹事）

10年目の節目、これまでの業績を振り返るとともに、新たな将来を展望してゆく年としたい。報告事項として①委員会構成は配布された表のように決まった。②ネームプレートを首からかけるものに変更した。字が大きく読みやすい、野外サロンでも使えるといったメリットがある。③会員は在籍62名、内3名休会（梅木、秋山、加藤会員）実員59名。④橋本鋼二会員から叙勲のお礼としてクラブにICレコーダーが寄贈された。④八王子健康作り推進協議会の担当は下田副幹事。⑤7月13日は南ロータリークラブ、15日には神奈川県横須賀プロバスクラブの集会に大野会長と佐々木幹事が出席。

#### 6. 10周年記念事業実行委員会

平原委員長から、10月15日まであと3ヶ月、ぎりぎりの日程となっている。記念誌のまとめは石井副委員長、市民会館で行われるイベント、エルシーでのセレモニーとパーティについては立川副委員長のもとで計画が練られている。大きな会場でのイベントとなるので、広報、会場受付、招待客の応接をはじめ人数がいる、といった状況が話された。

石井副委員長からは別紙配布資料「記念誌作成についてのお願い」で①顔写真撮影のため、次の例会日は上着、ネクタイ着用で出席、②400字程度の文章（テーマ自由）、各自のプロフィール欄の作成については作成要領に基づき8月例会日までに提出する、例会欠席の場合は石井副委員長宛郵送するように、との具体的な要請があった。

#### 7. 各委員会報告

##### 1) 例会委員会

徳永例会委員長：会員相互の親睦を図り楽しい例会にしたい。そのためにはよく知り合うことが大事なので、例会の席順なども考えていきたい。参加率を上げるようにしたい。欠席を事前に連絡するのは守らなければならないマナーとしたい。

##### 2) 情報委員会

橋本委員長：「プロバスだより」へのご寄稿を依頼することがあるので、ご協力をお願いします。印刷用の原稿を作成するためには、ワープロ化する必要がある。ワープロを使って書いた原稿の場合には、機種によっては読み替えが可能な場合もあるので、フロッピーもお借りしたい。パソコンソフトで作成し、Eメール、あるいはEメール添付ファイルで原稿をお送りいただくと、編集・誌面作成が容易となるので、可能な方はご協力を。

##### 3) 会員委員会

野末委員長：10周年行事を会員増の機会にしたい。日頃会員増を念頭に置き、皆様からの新会員紹介についてご協力をお願いしたい。

##### 4) 研修委員会

八木委員長：研修については会員の相互理解と新しいものに触れるチャレンジを考えて組み立てをしたい。また、相互理解のために率先して卓話に出て皆さんの趣味、研究、活動などについて話していただきたい。野外研修についてアンケートを次例会までに提出して欲しい。小研修会が考えられないか新たな場、希望を聞きたい。

##### 5) 地域奉仕委員会

永井委員長：学習サロンは10回目となる。後につながる学習サロンをやっていきたい。本日アンケート用紙を渡したので、新しいこと、考えていることを書き、来月の例会までに提出して欲しい。

#### 8. その他

- 1) 矢崎前情報委員長：先月配布した「プロバスだより」116号は115号の誤りなので、正しい号数を打ったものを今回再配布するので差し替えをお願いします。
- 2) ゴルフ同好会；12回コンペを10月20日予定。詳しくは次の例会で報告。
- 3) 写真同好会；発足間もないので、親睦をかねて1泊の撮影会を乗鞍岳で行う企画を進めている。

9. 各委員会の打ち合わせ（テーブル毎に実施）

10. プロバスソング斉唱

11. 閉会

1) 例会委員長からの連絡とお願い

今回は8月4日（木）お盆のため一週前倒して開催。終戦記念日の8月15日も近いので、あの日「私はこんなことをしていた」を共通テーマに各テーブルで話し合いをしたいと考えている。

配布資料の部数は70部準備して欲しい。

2) 濱野副会長の挨拶

大野会長を中心にした、新メンバーによる年度が始まった。特に10周年をひかえ、我々馴れない者が一生懸命努力をしていくが、皆様方の心強いご支援とご協力を得て頑張っていきたいと思う。（閉会）

## 投稿

## この一年を振り返って

前会長 大高秀夫

6月30日をもって任期満了となり、新理事の方々に引継ぎをさせて頂きましたが、私ごとき未熟者がこの重責を全う出来ましたのも、偏に、幹事、副幹事・各委員長はじめ、会員の皆様に支えて頂いたからこそと心より感謝致しております。

この一年を振り返って見ますと、反省することばかりで恥ずかしい限りです。スタート時点で運営方針を考えた時に、クラブとしてやるべきことは勿論ですが、最重点として取り組みたいと考えたことは、会員相互の交流を深めて楽しい例会にするにはどうしたらいいかということでした。

それには会員相互の会話の場として、テーブル毎のフリートーキングの時間が問題になる訳ですが、何を短縮すればその時間が作れるのか。折角来て頂いたお客様に紹介だけという訳にもいかず、ご挨拶をとというのが礼儀だと思うのでやむを得ない。会長挨拶も幹事・各委員会報告も3分以内でということにしてみたが、いざマイクの前に立つとあれもこれも会員の皆さんにお伝えしておきたいということになってしまう。それでも後で聞いていなかったとか知らなかったと言われることもあり、どうしても3分以内では難しいということになる。さて、どうしたものかと試行錯誤を重ねて来たが、これはという名案を見つけることが出来ないまま1年が過ぎてしまった。

年初の理事会で理事の皆さんに、この一年クラブの運営を任せて頂いたのだから、歴代の理事の方々が築き上げてきたものを踏まえて、より良いクラブに発展させるべく沢山の時間と労力を費やさなければならないのだから、やらされているのではなく「させて頂く」という心構えで取り組み、そうした支え合うご苦勞のなかからさせて頂くことの喜びや楽しみを見つけて頂きたいとお願いしました。

プロバスとは何だろうとそんな難しいことを考えるよりも、こうして縁あって集まった仲間なので「地域社会に奉仕する」（会則第四条）という目的に向かって楽しく活動して行くことが大切だと思う。そのためにはクラブのために出来ることは何か、どうしたら皆さんに楽しんで頂けるのかを自分なりに考えて行動することだと思う。

プロバスへ行けば何かいいことが、面白いことが有るのかな、どんなサービスをしてくれるのかなと、求めるだけでは楽しいプロバスということにはならない。お互いに支え合って成り立っている訳ですから、「駕籠に乗

る」ことに喜びを感じずるよりも、「駕籠を担ぐ」ことに楽しみをみつけることの方が大事なことではないのでしょうか。そのまた「草鞍を作る」人も居る筈ですから。

つまり、例会の内容をどうこうするよりも、楽しいか面白くないかはその人の心構えによって左右されることで、人様から与えられるものではなく、自らが作り出していくものだと思うのだが如何なものでしょう。これからもプロバスのメンバーとして、顔を合わせたら笑顔で挨拶（和顔施）をさせて頂くよう心掛けて行きたいと思っています。

この1年、まことにありがとうございました。

## 投稿

### 我が家のアイドル“ピーちゃん”

大野 幸二

今日は家族の一員であるピーちゃんを紹介する。

真っ白でスタイルのいい手乗り文鳥だ。平成14年春に、並木町の鳥屋さんで生まれたばかりの雛を世話してもらった。家に来たときは産毛がやっと生え、肌がピンク色で‘これで大きくなるのかな’と心配だった。孫が来て「ピーちゃん」と呼んだので名前をピーちゃんにした。家内が手のひらにのせて、餌を水に浸しスポイトの様なものでのどまで入れてやり、夜は風邪を引かないように鳥籠に厚手の風呂敷を掛けてやった。

半年たち、ピーちゃんもすっかり成長し餌もむき餌から皮付きの餌に変えた。くちばしで上手に皮をむき食べるのを見ているだけで微笑ましい。小さいころ尾羽にグレイの小さな斑点があったが、羽が抜け変わるたびに少しずつ白くなり、今は真っ白い羽になった。

起床して洗面所で顔を洗っていると、鳥籠から「ピーちゃん ピーちゃん ピーちゃんピーちゃん」と言う声が聴こえてくる。鳥籠のカバーを取って、ピーちゃんの餌箱の皮をストローで吹いて餌を補充し水を取り替えてやる。うれしそうに夢中で食べる。

日中はベランダに出してやり、風邪の強い日や雨の日は、二階の私の部屋に移してやる。昼間は籠の中で一日遊んでいるようだ。

夜は、夕飯が済むと床に新聞紙を引いて、小さな水盤に水を汲んでからピーちゃんを籠から出してやる、‘待ってました’とばかりに部屋の中を2・3回飛び回り、水盤の中に入って楽しそうに水を浴びる。この水浴びは春夏秋冬毎日変わらない。

水浴びが終わると私のところに飛んでくる、左手を出してやると、人差し指に止まって羽をバサバサして水滴を飛ばしぬれた羽を乾かす、私のところへ来るのはこのときだけで、羽が乾くと家内のところへ行きそばを離れない。家内がお勝手で洗い物を始めると手や肩に乗って遊んでいる、テレビを見ていれば手のひらでじっとしている、疲れて横になれば手のひらに抱かれたままいっしょに目を閉じて寝ている。

「ピーちゃん ぼちゃぼちゃ入ってくるよ」と言って家内が風呂に入ると、ピーちゃんもまた自分の水盤で水浴びをする。家内が、ピーちゃんを泣かしてみようかと言って両手に抱いて‘ピーちゃん ピーちゃん’と軽く頬ずりしてやると「ピーちゃん ピーちゃん ピーちゃん ピーちゃん」とうれしそうに鳴く、“ピーちゃん いい子 いい子”と家内がほめてやる。

夜11時頃になると、鳥籠にカバーを半分掛け「ピーちゃん ハウスだよ」と声をかける。部屋の中で遊ぶほうがよくてなかなか籠に入らないが、そのうちあきらめて籠に入り、寝る前には必ず餌を食べて水を飲む。止り木で落ち着くのを待ってカバーを掛けてお休みをする。

ピーちゃんは、耳がいいし目もいい、勘がいいしスタイルもいい、家内はめっちゃほめだ。孫のために飼ったピーちゃんは、今は我が家で一番の人気者だ。

## 第118回例会

日時：平成17年8月4日（木） 12:30～14:30

場所：エルシィ八王子

出席者：50名 出席率85%（会員総数62名、内休会3名）

1. 徳永例会委員長の司会で定時に開会
2. 大野会長挨拶

明日から八王子祭りが始まります。これは通算45回目になるそうです。確か昭和36年に当時の植竹八王子市長が、町村合併後の八王子市民の交流を願って始めたそうで、最初は3万人の参加を見込み、その後、各町の山車が参加し、年々盛大になってきて、今年は18台もの山車が参加の予定です。

また、8月上旬というのは、60年前に遡りますと、この町にとっても日本にとっても、本当に大変な時でした。8月1日の深夜から2日の未明にかけて、この町がアメリカのB29の空襲にあって約5万発の焼夷弾でもって攻撃されました。それで八王子の町はほとんど全滅してしまいました。

その頃、たまたまボツダム宣言が出されていて、これを日本が無視するのではないかということで、アメリカは、それでは原爆投下をしようと、命令が出たのが今日（8月4日）あたりではないかと思います。こうして8月15日の終戦を迎えました。

最近TVのドキュメンタリーで、当時の情勢のなか、陸軍の横暴を抑えるために昭和天皇が総理の鈴木貫太郎とともに大変ご苦労されたという生々しい番組も見ました。

私共は、現在の日本を考え、国際情勢を考える前に、こうした歴史を踏まえ、適確な歴史観を掌握しなければいけないと思います。残念ながら、近頃は適確な歴史観を持たぬ人が多くなっています。やはりこれは私たちも反省することは反省していかなければなりません。日本が世界各国に伍して、将来、常任理事国に相応しい国になるためにも考えていかなければならないことだと思います。

今年は、私どもプロバスクラブにとっても、10周年の記念事業があります。今日はそのことを中心にお話をさせていただきたいと思います。10周年の行事が盛大に行われますよう、そしてこれにより、私どもプロバスクラブが一層発展できますよう、ご協力をいただきたいと思います。

3. 来賓ご紹介・ご挨拶

東京八王子南ロータリークラブ：副会長 広瀬武彦様、タウン誌ワンツウエイト：編集 小澤道子様、中山正江様がご出席。

広瀬副会長より、八王子祭りの準備をしているが、年々寄付集めにご苦労されている由。ところが先週の花火大会で最後を飾る仕掛けを含めた大花火を、一社で引き受けてくれた会社が現れたと嬉しい近況報告などがあった。

4. 幹事報告（佐々木幹事）

- 1) 10月度例会日程、10周年記念事業との関係で10月6日（木）12時30分に変更した。
- 2) 各委員会の最初の懇談会が5委員会とも終了した。これから各委員長のもと方針が樹立されると思うが、委員の皆さんのご協力のもと、各委員会が初期の目的を達成するようご尽力願いたい。
- 3) 神奈川横須賀プロバスクラブの総会に、先日、会長と私が出席した。当クラブは会員38名であるが非常に活発な活動を展開中で、「出前トーク」と云って、それぞれの会員が自分のスピーチ出来る内容を、しかるべく市内に案内して、要請が有った所へ出向いて講話しているとのこと。なおこの方法も改善すべく検討中とのことであった。

5. 10周年記念事業（期日 平成17年10月15日）

1) イベント（立川副委員長、下山委員）

- ・演奏会：陸上自衛隊東部方面音楽隊、八王子市民会館、午後2時開演、  
主催 当クラブ、共催 東京八王子南ロータリークラブ、  
後援 八王子市、八王子市教育委員会、（財）八王子市学園都市ふれあい財団  
当音楽隊は高レベルの演奏で知られる、60名ほどの編成。  
現在ポスター、チラシ作成中。各種広報活動中。
- ・式典：会場 エルシィ、午後5時より、会長、実行委員長、来賓の挨拶。第8回サロン・ビデオ上映他。  
ご招待 約100名、ご案内 約400名
- ・レセプション・パーティ：会場 エルシィ、午後6時15分より、ビュッフェスタイル、  
アトラクション ジャズ演奏、フラメンコ舞踏、
- ・記念品：八王子プロバスクラブ・マーク入りの記念切手作成中。
- ・記念旅行：城崎温泉（兵庫県）、11月末ごろ予定、途中京都プロバスクラブとの交流も検討中。
- ・演奏会申込：全席指定のため、a) 一般の方々には、往復はがきで申し込みを受け付け、返信はがきで内容を通知する。b) プロバス会員本人分は別途用意あり。家族と親しい人については、別紙の「演奏会応募用紙」にて10名を限度に申し込みを受付ける。申し込み締切りは9月8日の例会日。結果は9月20日以降にプロバス会員経由で通知する。
- ・演奏会のチラシは制作が遅れているが8月20日以降に皆さんに届くよう工夫したい。  
上記イベントは、代表者会議、拡大委員会準備を進めているが、事業当日は、全員がいろいろな形で関わって、行事の遂行をしてもらいたい。来月の例会には、担当していただく組織表をお渡しするので、是非ともこの記念事業を大成功させるようご協力いただきたい。

2) 記念誌編纂（石井副委員長）

- ・全員の写真撮影：本日実施しているので全員もれなく撮影をお願いしたい。
- ・原稿：本日締め切りの自己PR文（400字）の未提出の方と、別のサロンの方の文章で訂正がある場合も、1週間の猶予を差し上げるので、必ず郵送にて提出されたい。

6. 各委員会報告

1) 例会委員会（徳永委員長）

- a) 10月例会日は13日から6日に変更した件の再確認。
- b) 本日の出席率は59名中50名で85%、近年まれにみる低率である。例会日が毎月第2木曜日となっているが、それが変更になり支障があるかと思うが、出来るだけ出席の協力をお願いしたい。
- c) 新しい名札は、会の終了時に、各自が自分の資料箱に入れて保管してもらいたい。

2) 情報委員会（矢崎委員代行）

- a) プロバスだより117号を配布した。大高前会長と大野幸二会員の投稿が載っているので、是非お読みください。
- b) 新年度に入って橋本情報委員長は、各委員との連絡にはEメールを使用する。これについては、情報委員の方のお持ちのEメールで送受信の確認を済ませており、プロバスだよりの原稿についても、委員長が編集して、印刷担当の岡田事務局長のところへもEメールで送付する方針である。

3) 会員委員会（野末委員長）

当委員会の役目である入会者紹介で、1名審査が通過したので、来月にはご紹介できると思う。また会員適任者がいたら是非ご紹介をお願いしたい。

4) 研修委員会（八木委員長）

- a) 本日は、野外研修と、サロンの方の野外研修のアンケートの締切日になっているので、ご提出をお願いしたい。

b) 卓話：本日は阿部和也会員から「良質の水確保」についてお話を予定。9月は平文夫会員から「相続税の改正」について卓話の申し出があった。10月以降は未定なので卓話の申し出を待っている。尚、小原康直会員が健康を害されて休会したいとの連絡があった。早期回復を祈念している。

5) 地域奉仕委員会（永井委員長）

第10回の生涯学習サロンは、来年2月23日開講式、5月25日閉講式の予定。このサロンの企画は皆様のアンケートによって決めるので、未提出の方は是非FAXなりEメール他でご送付ください。

訃報



加藤 寛会員が8月22日、肺ガンのため逝去され、27日に八王子市斎場にて告別式が執り行われました。享年76歳。元運輸省船舶技術研究所主任研究官。当クラブの創設時からの会員として、活動に貢献されました。ご厚誼を偲び、謹んでご冥福をお祈りします。

卓話

医薬製剤用の“良質の水確保”について

阿部和也会員

人の健康に関わる医薬品の製造プロセスで重要な役割を担っている一つが“水”である。

「日本薬局方」記載の“水”・・・製剤用途別4ランク

- ①常水：井水及び水道水。
- ②精製水：常水を蒸留、イオン交換、超ろ過又はそれらの組合せにより精製したもの。
- ③滅菌精製水：精製水を滅菌したもの。
- ④注射用水：常水又は精製水を蒸留もしくは超ろ過滅菌し、さらに発熱性物質（＝パイロジェン：エンドトキシン）を除去したもの。

精製水の原水“水道水”

不純物：無機物、有機物、藻類や微生物等生物由来など微量含有。この僅かな不純物とはいえ薬効成分の分解、凝集沈殿などの製剤上弊害をおこす懸念があり、場合によっては薬効を損なう。従って不純物を除去するため“水の精製技術”が必要となる。

水道水を精製する概要

- I 脱塩装置（軟水器）：ミネラル：カルシウム、マグネシウムを除く。  
硬水→軟水化：配管内や以後の各装置のスケール付着を防止。装置の有効性を延命維持し、ランニングコストの軽減。
- II 活性炭フィルター：市水道水含有殺菌性塩素（次亜塩素酸※）吸着除去。※極微量でも逆浸透膜、イオン交換樹脂を劣化する。有害なトリハロメタン、臭いなど多くの有機物を吸着除去。
- III 逆浸透膜装置：微粒子、微生物、大部分のイオン化物等をほぼ確実に捕集。
- IV イオン交換樹脂装置：イオン化物を確実に除去。
- V メンブランフィルター：孔径0.2～0.45μm装置の長期稼働による発生する漏泄物、微生物等を補集除去。

これらの装置の組合せによって「日本薬局方」記載の“目的とする製剤用の水”が得られる。

さらに“良質の水確保を継続維持”するためには、日々の水質検査（含水道水）、定期的保守点検及びそれら実施記録の整理保管が大切なことである。

## 7. 報告その他

- 1) 全日本プロバス協議会の役員：副会長立川富美代、補佐役下山邦夫、補佐役鶴田金通の各委員は、任期の平成18年5月まで同役を継続される。
  - 2) 茶道同好会：8月例会は休み。8月24日に食事会を行う。9月通常通り。10月は中野会員の旧家のお蔵でお茶会の予定。
  - 3) ゴルフ同好会：第11回コンペ、10月20日、GMG八王子ゴルフ場、6組24名募集中。
  - 4) 囲碁同好会：囲碁大会、9月16日（金）、台町市民センター、申し込み本日中。
  - 5) 写真同好会：9月5～6日又は6～7日、乗鞍高原の大黒岳、日の出撮影予定、参加者募集中。
8. 自由懇談：共通テーマ 終戦の日（昭和20年8月15日）、「あの日私はこんなことをしていた」
9. プロバスソング斉唱
10. 閉会：浜野副会長挨拶

先程は60年前の戦争の時代をふり返り、懇談してもらったが、八王子も空襲で7万7千人の罹災者を出しており、こうした記憶は「語れば伝わることを信じて」孫たちに伝えていきたい。

10周年の準備は順調に進んでいるが、今回の例会はこれがテーマとなり、ご協力をお願いするので、万事繰り合わせの上、ご出席を願いたい。

## 投稿

### 白き神々の座に憧れて

矢島一雄

世界の屋根と言われ、神々が宿る神聖な場所として、崇められているヒマラヤ。東西2,800kmにも及ぶ大山脈には、8,000mを超える巨峰が14座もあり、その内8座がネパールにある。

私が初めて、ネパールを訪れたのは、2,001年の2月のことでした。そのときは、人類によって初めて、8,000m 峰の登頂に成功した山として有名な、アンナプルナ 8,091m やマチャプチャレ 6,993m などの峰を撮影するのが目的でした。撮影も無事に終わって、ネパールを離れる前日。マウンテンフライトに搭乗した私は、今でも、あの感激を思い出すたびに、エヴェレストに対する想いが、益々強くなる一方である。重厚で、果てしなく続く山並みの中であって、ローツェ、マカルー、チョー・オユー、と言った、世界に名だたる 8,000m 級の巨峰を従えて聳え立つエヴェレストの姿。しかも、その切り立ったような三角の形をした急峻な南面は、雪も寄せ付けずに、黒々と光り輝いていた。あまりの素晴らしさに目を奪われて、フィルムが終わっているのも気がつかず、夢中でシャッターを切っていたあの思い出。

以来私は、いつの日か、エヴェレストが眺望出来るピークに立って、エヴェレストと再会を果たしたいと思っている。

## 投稿

### お弁当

大串延子

子供たちのためにお弁当を30年作り続けた。長女の幼稚園入園から始まり、4人の子供の末っ子が高校卒業まで、一時期は4個という状況であった。

公立校の様に同じものをみんなで食するのも教育価値はあると思う。しかしそれぞれのお弁当を見せ合いながらお裾分けをしたり、されたりランチタイムはさぞや楽しかっただろう。オレンジを入れた筈なのに、苺のへたが残っていたりして、その時私はそのお母様の顔が思い浮かぶのである。

「又お弁当作ってね」大学へ入学してしばらくは食堂を利用していた長男が言い出した。大学生の為に、そしてその友人の為に私は作り持たせた。その息子は大学二年の春、病魔に奪われた。元気になって又お弁当を持って大学へ行ってくれたらと願っていたのに。彼の使っていたお弁当箱はそのままである。

## 第119回例会

日時：平成17年9月8日(木) 12:30～14:30

場所：八王子エルシィ

出席者：57名 出席率97% (会員総数62名、内休会3名)

## 1. 徳永例会委員長の司会で定時に開会

会員 加藤 寛様 8月22日ご逝去、哀悼の意をささげる黙祷。

## 2. 会食

## 3. 大野会長挨拶

加藤 寛さんが8月22日にご他界されました。プロバス賛歌の第二章の一節“平和掲げて この国に”は加藤さんのご提案で修正した言葉です。このように加藤さんは平和ないつも穏やかな誠実な方でした。またPTAの会長などを務められ、後輩、後世代の育成に大変ご尽力されました。座右の銘は“余生なし（老後を余生とせず）” – 終始現役であるとの信念をもって活躍され、この世の中に沢山のものを刻み込まれました。さらに硬い石に丹念に刻み込む篆刻にも造詣があり、お人柄が偲ばれます。

10周年記念行事までひと月余りとなりました。準備も着々と進み、これからも皆様方の絶大なるご協力をお願いします。“プロバスクラブ”これからの10年の発展の基盤とさせて戴きたく宜しくお願いします。

## 4. 新入会員の紹介 沢渡 進会員(会員番号90)

紹介者 宮崎浩平会員：沢渡さんは昭和14年八王子に生まれ、第二小、六中卒。六中時代には、野口先生（会員39）に歴史を学び、高校は早稲田学院、早大政経学部卒業。味の素入社、営業・商品企画を経験し、55歳に退職され母校の早稲田大学、国学院大などで聴講し、現在歴史の勉強をしております。お人柄も温厚で、中、高時代の仲間のリーダーシップもあり、以前からプロバスクラブに相応しい人と思っておりました。先日、野口先生を囲む師弟の会の際に、当クラブの趣旨に賛同し入会を希望されました。これからの貴重な若い人材と思ひ、皆様と一緒に仕事ができるものと確信しましたので推薦いたします。

沢渡 進 新会員：入会のご承認を戴き大変嬉しく思っております。八幡町に生まれ育ち八王子っ子ながら、八王子のことが分かっているようで分かっていないのが実状です。これから先輩の方々と八王子のことを学びつつ、八王子のために貢献できれば、これまでの人生に新たな活気が加わるものと期待を抱いております。なお、特技としては料理、なかでも“おでん”です。（おでん同好会の新設、大歓迎！）

## 5. 創立10周年記念事業実行委員会からの報告

1) 平原委員長：クラブ10周年記念事業の準備もお陰さまで着々と進んでおります。記念行事の案内状、ポスターやチラシの製作、発送、また音楽演奏をしていただく自衛隊との折衝など、各担当の委員の方々には大変ご活躍して頂き有難うございました。記念誌につきましても原稿の整理纏めに奮闘されております。

尚、お骨折りを戴いております橋本鋼二情報委員長にも実行委員としてご活躍戴きたいと思っております。

予算もほぼ予定通り進行しており、10月例会で最後のパーティ会費10,000円を徴収させて頂きます。昨日は大野会長、立川さんと三名で南ロータリーの方へ行って参り、全員ご出席（ご参加の会費）の旨、暖かいご配慮を戴きました。会員の皆様にもイベント、パーティー（要参加費）に多く方をお誘いし、盛りあげて戴きたくよろしくお願いいたします。

2) イベント（立川副委員長）：演奏会のチラシ八千枚、ポスター二百枚、自衛隊の皆さんにも賞賛され素晴らしいものができました。チラシは各大学、プラスバンドの熱心な有名な高校、中学また社会教育団体等々へ担当者が持参し届けました。ポスターは市民会館、いちようホールや市民センターなど人の目立つところに先月末から掲示しました。いずれも“共催：東京八王子南ロータリークラブ”を表示しました。

三つ折の「クラブ創立10周年のつどい ご案内」は450通程、ロータリー関係、関東圏のプロバス関係、サロンを受講された方、ご来賓を戴く市長はじめ皆様にお届けしました。市長からはご出席の返事を戴いており、きっと賑やかなものになると期待しております。

二段階の広報、宣伝となりますのでさらに申し込みが期待できそうです。

自衛隊音楽隊との打合せは本番の進行、演奏曲目も含め9月5日に終了しました。式典に関しては案内状をお送りしまして、締め切りの9月20日に参加者が決定後進めてまいります。南ロータリーの方々は全員登録をしていただくと言うことで、ご出席の返事の葉書も一部届いております。

レセプションパーティーも参加者が決定後進めてまいります。ご案内の通り、アトラクション：ジャズ演奏、フラメンコをご披露して戴く予定です。

別紙配布した「記念事業実行委員会の担当表」について、これまで部門委員長、並びに部門準備委員と準備を進めていますが、式典当日の接待などに備え部門担当委員を割り当て致しましたので、全員参加のご協力をお願い致します。なお、担当委員につきましてご意見がありましたら、お教え戴ければと思います。

最後に配布資料の「記念旅行のお誘い」について説明。本予約が11月例会と記載されていますが、秋の旅行シーズンで特急列車予約の都合上10月の例会までに参加の意思表示をお願いします。

演奏会応募用紙（下山委員補足説明）：プロバスクラブ会員による紹介による演奏会応募用紙には、会員自身名前を記入の上ご提出願います。この応募の返事は会員を通じて行います。会員の席は別途用意しています。応募用紙もまだ残っていますのでご招待、お誘いをお願いします。なお、ポスター（チラシの大判）をひとり最低でも1部持ち帰り、自宅もしくは町内の掲示板に掲示されますようご協力をお願い致します。

3) 記念誌部門（石井副委員長）：会員皆様から提出された全ての原稿の校正は一回だけ済んでいます。記念誌は、A4判で150～180頁程度でB5判に縮小した場合の頁数は不明。

さらにA判からB判に縮小し、短時間で校正する為には記念誌部門委員（石井委員長、5周年以降の情報委員会委員長の計6名と協力者：八木研修委員長）のみならず、会員皆様のご協力をお願いします。小論文は現在62名提出され、これは予想していた以上のもので“10周年記念誌の目玉”になるものと期待いただきたい。尚、プロフィール、小論文の訂正があれば今日お帰りまでに申出て頂きたい。

## 6. 幹事報告

- ・加藤 寛会員：8月22日ご逝去、26日お通夜、27日告別式がありました。会長名で献花・弔電、多数のプロバス会員が参列、有志が受付役をしました。奥様は感謝の意を表しておられ、皆様にも宜しくとのことでした。奥様は生涯学習サロンの常連メンバーでもあり顔馴染みの方も多いかと思います。
- ・小原 康直会員：体調不良により8月7日付休会届、9月1日から年末まで休会。
- ・澤渡 進新会員：会員番号は90番、所属委員会は地域奉仕委員会。以上により本日現在、会員総数62名、休会員3名、実動59名。
- ・10周年記念事業、来年に入っては生涯学習サロンの行事があります。全員参加の建前ですが、体調不良など遠慮なく申し出戴いて、できる範囲内で協力して頂くように、またお互い思いやりをもって、暖かい気持ちで協力願います。

## 7. 各委員会報告

### 1) 例会委員会（徳永委員長）

- ・副委員長の紹介 山下 安雄、浅川 文夫委員の2名。
- ・10月例会は第一週木曜日6日。10月例会から規定により服装はネクタイ、スーツ着用。
- ・10月例会で野外研修費4,000円、パーティ費10,000円 合計14,000円を徴収。
- ・例会配布資料は11時30分までにお持ちください。

### 2) 情報委員会（橋本委員長）

- ・副委員長の紹介 山崎 修司委員
- ・プロバスだより第118号に矢島 一雄会員、大串延子会員から寄稿戴きました。また卓話については難しい話題なので正確を期すため演者提出原稿を囲み記事としてみました。ご意見をお聞かせ戴ければ幸いです。なお、投稿をお待ちしています。情報委員にお話しの上、奮ってご応募下さい。

### 3) 会員委員会（野末委員長）

- ・副委員長の紹介 土井俊玄会員

・今回 宮崎 浩平会員、野口 正久会員の紹介により澤渡 進会員の入会。また次回1名入会の手続き中。さらに新しいジャンルの方の紹介をよろしくをお願いします。

#### 4) 研修委員会 (八木委員長)

・副委員長の紹介 鶴田 金通委員

・11月10日例会日は野外研修。配布資料「野外研修へのお誘い」のように、国立スポーツ科学センター 渋沢資料館他を見学。本日参加申込用紙を提出(会費4,000円、10月例会で集金)。全員の参加を期待。

#### 5) 地域奉仕委員会 (永井委員長)

・副委員長 矢島 一雄委員

・学習サロンのアンケートは纏めの最中ですが、沢山の学習サロンのテーマ、斬新なアイデアを戴き有難うございました。まだいくつかのテーマが足りません。個別にお願いにすることもあるかと思えます。その節は宜しくお願いいたします。決定しだい皆様にアナウンスしたいと思っております。

### 8. 各クラブからの報告

1) 囲碁同好会：9月16日(金)9時～17時 台町市民センター 囲碁大会。11月4日～5日 陣屋温泉1泊で囲碁大会 参加費15,000円(10月例会徴収)。

2) 茶道同好会：9月13日(火)通常通り阿部治子会員宅で例会、10月の例会は場所を変更して行います、お間違えないように!

3) 社交ダンス同好会：10月は6日、27日に変更。11月は17日、24日の予定。

4) ゴルフ同好会：次回のコンペを6組24名申し込みしています。ご参加の程宜しくをお願いします。

### 9. 卓話 「相続時精算課税制度」について

平 文夫会員

#### 1. 制度の概要

贈与税の課税制度には「暦年課税」と「相続時精算課税」の2つがあり、相続時精算課税は贈与時に贈与財産に対する20%の贈与税(累積で2,500万円の特別控除があります。)を納め、その贈与者が亡くなった時にその贈与財産の贈与時の価額と相続財産の価額を基に計算した相続税額から既に納めた贈与税相当額を控除します。

相続時精算課税の贈与税は毎年1月1日より、その年の12月31日までの申告で、贈与者である父又は母毎の選択となります。

#### 2. 注意点

①贈与者は65歳以上の親、受贈者は贈与者の推定相続人である20歳以上の子(代襲相続人を含みます。)です。年齢は贈与の年の1月1日で判定します。

②相続時精算課税の制度を適用する者は、その最初に贈与を受けた年の翌年2月1日から3月15日までの間に納税地の税務署長に贈与税の申告書に「相続時精算課税 選択届出書」の他必要書類(戸籍謄本等)を添付して提出する必要があります。

期限に遅れると、その「相続時精算課税」は受け付けてもらえません。

③「相続時精算課税」を選択すると、その贈与者の相続時まで「暦年課税」に変更できません。(住宅取得資金特別控除額の特例は触れてありません。)

### 10. プロバスソング斉唱

### 11. 閉会

## 会員の活動から 立川 富美代会員モンゴルで 名誉市民草

ガールスカウト 活動の一環として行ってきたモンゴルに 緑を贈る運動の功績で、「モンゴル共和国・ウランバートル・パヤンゴル川名誉市民草」を受賞されました。この賞を受けた方は最初が現在の 大統領、二番が朝 青龍、三番が外国人ではじめてという立川昌美代会員ということです。長いスパンでの 奉仕が評価されたものと思われまます。おめでとうございます。



## さようなら加藤さん

立川昌美代

「立川せんせい、もう気力がなくなりました」と 電話を頂いて 1ヶ月足らずの訃報でした。加藤さんとは昭和54年以来八王子市青少年委員という 社会教育の行政委員の 先輩、後輩の仲で、お互い加藤先生、立川先生と呼び合う 仲間でした。特にその委員会の中で、八王子市少年少女合唱団をつくり、一緒に20年、音楽好きの子供たちを 育ててきました。定期演奏会、クリスマスコンサート、駅コンサート、キャンプと1年中子どもたちと 音楽を通して 楽しい活動が 続きました。

お互いに引退を いたしました。八王子フィルハーモニーの後援会で 今度は大人のオケを 応援して頂き、1年に何度か演奏会にご夫妻で必ずお 出でになり、短い会話を楽しみました。平成7年夏、プロバスクラブの準備金の中で、誰か紹介をと言われ、一番に声をかけました。気持ちよく受けてくださり、私の推薦第一号となりました。以来プロバスクラブ員としての加藤さんのお 人柄はみなさんがよくご 存知だと思います。何事も真摯に、おだやかで、常に大きく包んでくださるお 人柄は30年前から全くかわりませんでした。ただ、飲んだときだけは 一寸変わります。それはものすごくハシゴがお 好き、それも必ず「私の 近くへ」と北野天神の側まで引っ張っていかれます。そしてカラオケ、十八番は「木曾路の 女」決まっていました。

この数年、体調がすぐれず、動から静の世界でご活躍されました。例会にお顔が見えなくなると 思うととも淋しくなりました。ご冥福を祈ります。

## 加藤貴さんとの 交流の日を思い 出しながら

矢崎 安弘

私がプロバスクラブに入会したのは平成17年9月でしたが、その時、加藤さんは会員委員会委員で、わざわざ家が 訪ねてくれたのです。それが初対面でした。プロバス入会后、大野聖二さんのお誘いでロータリー囲碁クラブに 参加し、私の囲碁は20年ぶりに復活したのですが、そこで加藤さんが 幹事をされており、加藤さんが碁を 打たれることを 知りました。それから間もなくして、プロバスクラブにも 囲碁同好会が出来、そこでも加藤さんが 幹事をされ、お世話になりました。例会では数多く 対局の思い出があります。

実は加藤さんとは、不思議な繋がりが ありました。加藤さんは 厄運輸省船舶技術研究所で 主任研究官をされていましたが、同じ職場の方で 四国のお遍路をされた、館さんという人がおられ、私も四国の歩き 遍路をしたものですから、加藤さんを通じて 資料交換をしました。その館さんの趣味は 木版画で、同じサークルに私の友人 Yさんがいることが 偶然分かったのです。そこで、加藤さんの 肝いりで、ある日、長沼の鎌田鳥山で4人が集い酒を 酌み交わし、深夜まで大いに 歓談しました。加藤さんのお 宅にも何回もお 邪魔して篆刻のお話なども聞かしてもらいました。加藤さんのお 付き合いは、約4年という短い 期間でしたが、これから更に交遊を深めようとしていた 矢先の訃報で、残俳でたまりません。衷心よりご冥福をお 祈りするばかりです。合掌。

**第120回例会**

日時：平成17年10月6日 12:30～14:40

場所：八王子エルシィ

出席者：55名 出席率：91%（会員総数63名、内休会3名）

## 1. 徳永例会委員長の司会で定時に開会

## 2. 大野会長挨拶

本日の例会は、10周年記念事業が主とした議事になりますが、その前に報告が2件あります。一つは、63人目の会員として、長谷川貴訓さんを迎えたこと。二つ目は、立川会員が、モンゴルの名誉市民章を受賞されました。大変名誉なことです。

10周年記念事業は、多くの市民を巻き込み、画期的な事業であり、これからの10年を益々発展させる契機になると思います。宜しくご審議をお願いします。

## 3. 来賓紹介。ご挨拶

東京八王子南ロータリークラブ：鈴木丈史会長、松村聡幹事

鈴木会長より、現在会員60名で20周年を迎える。両クラブが八王子に根づくよう、お互い努力しましょう。

15日の10周年記念事業の成功を願うと共に、ご協力を約束しますとの挨拶があった。

## 4. 新入会員の紹介 長谷川 貴訓（会員番号91）会員委員会所属

紹介者、中野会員； 元理想科学工業KK 常務取締役開発本部長兼研究所所長。本人は発明が得意で会社に貢献してきた。趣味も多彩で、ピアノ、サクソ、油絵、合気道、スキューバダイビング、旅行等。

長谷川 貴訓新会員；この様な素晴らしい会に入会できる機会を得て感謝している。私は、昭和18年1月生れの62歳。松下電送に入社し、3年後に理想科学に移り、開発関連の仕事をし、プリントごっこ等を開発。52歳で退職し第二の人生を歩む。皆様の教えを得て、少しでも社会に貢献できればと考えている。宜しくお願い致します。

## 5. 幹事報告（佐々木幹事）

1. 会員動向 長谷川会員の入会で、会員総数63名、休会3名、実動60名。

2. 立川会員のモンゴル、ウランバートルの名誉市民章受賞は、皆様共々喜びたい。なお今後会員の中で、このような種々の受賞等があると思うので、その際は幹事に情報提供を願いたい。

## 6. 各委員会報告

## 1) 例会委員会（徳永委員長）

・11月10日は野外研修の為、バスの中で例会を開催。

・名札は、10月15日に演奏会場で渡し、帰りに出口で回収。プロバスクラブのバッジは全員着用。

## 2) 情報委員会（橋本委員長）

・プロバスだより119号は、予定した寄稿文に替え、故加藤会員の追悼文を載せた。

・会員活動欄は、写真入と無いのがダブった。再発行を考えている。

・プロバスだより10周年記念特集は、別発行か通常号の増ページにするか、感想原稿の集まり等を勘案して決める。4頁程度を考えている。感想、経過等の寄稿をお願いします。

## 3) 会員委員会（野末委員長）

・長谷川新会員を歓迎し、活躍を期待。新会員の募集に協力願います。

## 4) 研修委員会（八木委員長）

・11月10日は野外研修で、参加申込者は51名、バス補助席使用。差し入れ歓迎。

・例会での卓話は、下田会員によるもとげ抜き地蔵縁起“を予定。

5) 地域奉仕委員会 (矢島副委員長)

- ・生涯学習サロンについて、話し手の方に案内を出しているが、テーマの題名、希望日、話の概要を400字以内に纏め、10月末迄に永井委員長に提出方願いたい。

7. 各クラブ報告

- ・お茶同好会、10月11日(火)、午前10時、多摩都市モノレール砂川7番駅集合。
- ・囲碁一泊大会、11月4日(金) 10:10、JR高尾駅、下り2番ホーム集合。
- ・ゴルフ同好会、10月20日(木) GMG八王子、7:50フロント集合、5組予定に二人余裕あり、参加希望者は小林まで。

8. 10周年記念事業実行委員会

1) 平原委員長

- ・記念事業まで10日弱、準備は順調に進んでいる。イベントは当日分を除き、満杯になった。これは立川副委員長ほか実行委員のPR、活発な活動による。順調に座席についていただく様、対応をお願いする。
- ・記念誌は、今日から印刷にかかる。5周年の倍の頁数になる模様。
- ・東京八王子南ロータリークラブ杉山様(プロバスクラブ創立の発起人)から志を頂戴した。また、南ロータリークラブは欠席者を含め全会員から会費をいただいた。

2) 石井副委員長

- ・皆さんの協力を得て16頁からなる記念誌を15日に配布できる。岡田会員の協力で予算内で完成。

3) 立川副委員長

- ・報告に先立ちモンゴル名誉市民章受賞の祝いに対するお礼とご挨拶があった。10年程モンゴルに奉仕活動をしてきたが、ここ4年程で国と都から二回寄付を頂き、ガールスカウトを20人程連れて行き、モンゴルの学校に植樹をした。人がとても良く、夢のある国でこれからも続けて行くつもりである。

・イベント関連

① 配付の“記念事業当日担当表”に担当チーフ名が出ている。

この計画は1年前からで、無料出演の陸上自衛隊と交渉成立し、地域に奉仕ができると実感した。市民会館を満杯にすべく、9月から拡大委員会を開き、下山チーフ以下15名で活動してきた。

② 式典、パーティの方も大阪の全日本プロバスの会長をはじめ、北九州、京都、横浜、鎌倉、横須賀、品川、等多くの来賓がある。

③ 当日は、遠来の客と地域の客を、心からお迎えする様に。開場から開演まで、通常より多く時間のインターバルをとってあり、1800人のお客様に粗相の無いようにしたい。

④ 写真を撮る情報・記録担当者には、目立つ腕章を用意するので必ずつけること。

⑤ 服装は、カジュアルでないもの。女性は華美にならない程度に。

⑥ エルシィの送迎バスは、ご招待のバス券を持っている方で、会員は徒歩が原則、足の悪い方のみ利用。

⑦ レセプションは入り口からウェルカムドリンクを渡す、座席は来賓用に3卓用意、その他は自由席。お客様を最優先をお願いしたい。

⑧ 市民会館は、正面に10周年記念の陸上自衛隊音楽隊演奏会の大きな看板が掛かり、その両脇にプロバスの旗と国旗が掛かる。音楽隊は約45名。

⑨ 城之崎温泉の旅行、16名参加。今日まで受け付けている。会費は11月例会に。

4) 松尾チーフ(楽屋、弁当)

我々のチームは、裏方であり、音楽隊のサポートと、全員に弁当と飲み物を渡し、後始末をすること。当日は、音楽隊とプロバスの接点になる。

5) 下山チーフ(エントランス、ドア)

① 会場は略満席。招待客 150席、会員の客 450席、一般公募 1000席、当日席 200席。

② 多人数の方々に粗相の無いように音楽を楽しんで頂くことが、地域奉仕の第一。その為に我々のエントランスの任務は、ドア係と協力してお客が円滑に入場・着席していただくこと。

③ 具体的な仕事は、入り口に案内を貼る、受け付けを作る、来賓を案内する、プログラムの配付、旗の移動等。次に、ダブルブッキング、一葉一人の申込で二人来る等のクレームに対処する必要がある。

④ 当日の整理券(当日券)を発行し、入場してもらう。チラシの捌けぐあいから見て相当数来ると推測。

また二名申込、一人で来る場合もある。受け付けでは、一人か二人かを訊ね、整理券を確認して空席を把

握し、一人でも多くの方が入場できるようにする。

招待客は、30数名。控室にはボランティアの女性が案内。来賓接遇チームは、控室にて来賓を迎え、紹介、歓談する。予ベルで、会場に同行。終演後は、バスに案内する。チーフの二人はバスに同乗する。

ドア係は、ドアの開閉、席の方向指示。第一ベルが鳴ると主ドアを閉める。また、トラブルの発生をトラブル係に連絡。ドアから座席までの案内は、ボランティアの女性8名が行う。

一旦ドアを閉めると、演奏中は、ドアの開閉はしない。曲間に、両端のドアを開け追加の人を入れる。終演には、全ドアを開き、退場者に挨拶をして見送る。

ステージマネージャーは立川副委員長にお任せする。音楽隊との調整、花束の贈呈。

終演処理については、立川副委員長以下、音楽隊を見送り、会場内点検、精算支払い等。

開演の挨拶は大野会長、二部の最初に、平原委員長より、プロバスの紹介をする。

当日は、全員9時集合で、今説明した事を、現場で再度、調整し決めて行きたい。

プロバス会員の席は、一階後列の24~26列を用意。記録チームの人は、ビデオ、写真を撮る関係で、26列の22番3番辺りが良いと考えるが、それ以外は席を決めていない。招待席や会員の客等の正面席が空いた場合、会員の方に座って頂くことがあるので、指示に従ってほしい。

#### 6) 鶴田チーフ(式典、レセプション会場)

記念式典は17:00~17:45まで、司会は大高副委員長で行う。

パーティは、休憩15分のあと、18時より立川副委員長の司会で行う。

出席者は、現在133名。来賓、南ロータリー、東京八王子レデースクラブ、生涯学習サロンの参加者、我々会員。

式典は140席の椅子を準備。パーティは、14卓10人の円卓。

卓の準備をする。内3卓は指定席。他は自由席だが、お客様優先でお願いしたい。

式典、パーティは、4階で行うが、部屋が15:30まで使用されているので会場の準備に時間の制約がある。

そのため準備は、前日三階の“福”の部屋を借りており、13:00~16:00まで行う。

役割分担も、その時決めたいし、受け付け等のリハーサルも行なうので、担当会員は参加願いたい。

パーティは、入場、着席、乾杯の後7時過ぎよりアトラクションがある。

8時頃に終了、帰りの客に記念品を渡す。その時、原則として名札は回収する。

#### 7) 石井副委員長より

記念誌と記念品は300組準備し、記念誌は更に50部印刷してある、会員紹介の客に宣伝頂き、記念誌が欲しいと言われる方には2千円で頒布する。

#### 8) 質疑応答

開場1時からになっているが、時間の流れが知りたい、警備の点は？

- ・プログラムには、1時開場、2時開演で4時終演になっている。警備については、記載していないが、エントランス、ドアのチームの中で処理することになる。当日、9時から打ち合せ、詳細をきめる。
- ・5時からの式典は、最初にプロバス賛歌斉唱、大野会長の来賓紹介、平原実行委員長の10周年の歩みを入れた挨拶、来賓の挨拶、最後に第8回生涯学習サロンのビデオが10分程。

1800人も来ますと、駐車場、外の整理の問題は？、受け付けの前に人が並ぶ等の整備の問題は？。

- ・原則として駐車場は無いと案内している。会場前の混雑整理の担当は決めていないが、状況により考える必要がある。その為、通常30分の開場から開演の時間を1時間とってある。
- ・尚基本的に、何かが起こった場合、誘導は先ず会館の人が行う、我々はそれに従うことになるが、担当は決める。車で来る人の駐車場の整理は会館の人が行う。会場前の駐車場が満杯の時は、別の場所が指定される。会員の紹介客が車で来られる場合、早めに来るよう様に伝えて下さい。開演に間に合わなくなると、座席の保証が無く当日券になる。

記録係は写真を撮ったりするので、裏方のタイムテーブルがあると良い？

- ・当日までに、一日の流れのタイムテーブルが出る。

#### 9) プロバスソングの斉唱(八木会員の注意事項)

記念式典で歌う。歌詞の前半は、会の説明とか、私達の生き様。“さあ”と言う所からは、私達のマニフェスト。気合をいれて、躍動感を持たず。“こころ”の所は、広い心で“こころ”と伸ばす。“さあ”の所は、“さーあ”と伸ばさず“さあ、む”の感じで歌う、等の指導があった。

## 10 閉会 濱野副会長

10周年記念が秒読みの段階に入って来た。先程から、綿密なスケジュール、当日の役割分担等につき説明された。長い時間をかけ計画し、実行してきたその日を迎えるが、最後に全員の協力では是非とも成功させたい。実行委員会に携わった方々に、会長共々心よりお礼を申し上げる。

## 投稿

## 書芸術の先端を走る破体

阿 部 和 也

「破体」とは、一紙面上に二つ以上の書体を混ぜて表現することである。漢字の書体を大別すると、契文（亀甲獣骨文字）・金文（鐘鼎文字）・篆書・隸書・草書・行書・楷書と七体となる。これらの中で、造形的に特に魅力を感じる書体として金文を採り上げ、隸書を加え、更に草書を活用するなどして表現の強調に勤めている。この表現が、松本筑峯先生の破体書である。

書のイメージの表現を破体に求め、古典、碑版法帖を基にあらゆる書体を極め、漢字と仮名まじりの文に漢字は金文、篆隸を取り入れて、方勢と円勢の調和美に独自の現代書を見出す。これが東洋書道芸術学会の究極の理念である。

東洋書道芸術学会は、松本筑峯先生が昭和30年（1955年）、この八王子市台町に設立された。翌年（1956年）7月、当学会の月刊誌「方円」が創刊され、現在では通巻第六百三十余号に達した。

年一回上野の東京都美術館において全国からの公募展が開催され、今年（2005年）

で第50回『東洋書芸展』（代表作“亀文鳥跡”“雪中放馬”“嵐影湖光”“森羅万象”“有徳の道福德の城”“桜吹雪”“一期一会”）が開催され年々盛況を呈している。

昭和54年（1979年）には書芸術の殿堂『東洋書道芸術館』を本会発祥の地、台町4丁目に竣工し、全国組織の本部事務局として機関誌の編集などの業務を行っている。

昭和58年（1983年）季刊誌『破体』を創刊、現在『方円』の別冊として、既に第88号が刊行された。これには、先の漢字七書体の歴史的発祥についてや現代書『破体』の書芸術的魅力が連載でどなたにも解りやすく解説され、興味深いものである。

破体書に共鳴する書家が出品する『破体展』（代表作“秋一葉”“山鶏舞鏡”“鳴弦”“無事平穩”“快刀断乱麻”“中庸清潔”）は昨年（2004年）第45回を迎えた。

筑峯破体グループ展（代表作“汝自身を知れ”“精神一倒”“老馬乃智”“樹陰読書”“喜雨紅”）は、毎年銀座（東京）の画廊で昨年8月に第17回を開催した。

一方、1974・78年銀座松屋画廊（代表作“開物成務”）、1974・78年には筑峯先生のふるさと下妻（茨城県）、'94年新宿小田急美術館（代表作“波乱万丈”）

さらに毎年1月『書きぞめ展』が八王子市芸術文化会館（いちようホール）で開催し、出品者それぞれが半紙という狭い世界で自由奔放に己を表現した作品が展示され、批評会や模範席上揮毫は大いに勉強と励みになっている。

更に'80年代に入り、ロンドン・パリ・ウイーン・アテネ・プラチスラバ・ハワイ・北京・杭州・鎮江破体展、韓国文化研究会と日韓親善破体展、マカオ国際書画芸術交流大展招待出品（“水合青天流”）など、世界に広めるべく更なる意欲を燃やし、グローバルに展開している。

これまさに、八王子発祥の“書芸術の先端を走る独創的な松本筑峯流破体書”である。